

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGsの達成を目指し、Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートの理解に必要な歴史的背景やモチーフ・技法・展示方法などを適切に用いることができる</li> <li>・社会課題や哲学的言説について理解し、アートと関連させて説明することができる</li> </ul> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートを見て感じ取ること（＝感性）を通して社会課題を多角的にクリティカルに捉え、自分の考えを構築することができる</li> <li>・物事に一つの解答を求めるのではなく、複雑なまま受け入れて熟考することができる</li> <li>・自分自身の価値観やモノの見方を俯瞰し、他との関係性のなかで相対的に意味づけることができる</li> </ul> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身を通して自由に世の中を捉えることで、自分の未来の可能性を開いていくことができる</li> <li>・他者の表現や言説を自分の価値観に照らして、主体的に想像することができる</li> <li>・作家が内省を突き詰めて作品と対峙することを追体験することで、内在する自己の有りように向き合う姿勢を身につける</li> </ul>	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①アート思考と論理思考の違いを理解し、用語として使い分けることができる。</li> <li>②対話型鑑賞や作品分析に必要な情報を集め、目的に応じて選択することができる。</li> <li>③アートにまつわる哲学的言説や時事、歴史的事実などについて自分の言葉で語ることができる。</li> </ol> <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①アートとそうでないものとの違いについて鑑賞者と作品との相対性やコンテキストによる関係性を意識して考察することができる。</li> <li>②一つのアート作品についての情報を総合し、自分なりの分析を施すことができる。</li> <li>③アートプロジェクトや文化政策、パブリックアート等を通してアートに関わる社会課題について推察し見通すことができる。</li> </ol> <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①より多くのアート作品や文献に触れようとするすることができる。</li> <li>②一つの作品やプロジェクトに関する学びに対して時間をかけることができる。</li> <li>③自らの考えを昇華させるために、他者とアートについて語り、互いの価値観を認める姿勢を身につける。</li> </ol>	

授業日	5/23(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回																
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】②③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】③ 本時の具体的な目標 ・違和感を切り取ったお互いの写真作品を鑑賞し、言説の違いを確認することで解釈の広がりや違和感の捉え方の違いについて気が付くことができる。 ・「脱文脈と再文脈化」がアート鑑賞の一つの観点であるということ具体的な作品例を通して理解することができる。 ・美術の歴史的な背景を理解することが、作品理解を促すだけでなく異文化の理解につながる点について理解することができる。																		
時間 授業内容	5 時間目 6 時間目	写真作品の相互批評と考察（ペアワーク）。「脱文脈と再文脈化」の解説・講義。 美術鑑賞の仕方として歴史的背景を理解することについて実例を交えて解説・講義。 次回のフィールドスタディに対する注意事項を伝達。																	
評価方法	学びの記録についてのルーブリック <table border="1" data-bbox="295 728 1444 996"> <tr> <td><b>観点①</b></td> <td><b>違和感のひとつに「脱文脈と再文脈化」があることが理解できているかどうか。</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>脱文脈と再文脈化について適切に説明することができる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>脱文脈と再文脈化について講義の内容をメモすることができるが十分に理解した記述とは言えない。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>脱文脈と再文脈化について説明をすることができていない。</td> </tr> <tr> <td><b>観点②</b></td> <td><b>相互批評することについて他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。</b></td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>相互批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>相互批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができる。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>相互批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができる。</td> </tr> </table>			<b>観点①</b>	<b>違和感のひとつに「脱文脈と再文脈化」があることが理解できているかどうか。</b>	A	脱文脈と再文脈化について適切に説明することができる。	B	脱文脈と再文脈化について講義の内容をメモすることができるが十分に理解した記述とは言えない。	C	脱文脈と再文脈化について説明をすることができていない。	<b>観点②</b>	<b>相互批評することについて他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。</b>	A	相互批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。	B	相互批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができる。	C	相互批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができる。
<b>観点①</b>	<b>違和感のひとつに「脱文脈と再文脈化」があることが理解できているかどうか。</b>																		
A	脱文脈と再文脈化について適切に説明することができる。																		
B	脱文脈と再文脈化について講義の内容をメモすることができるが十分に理解した記述とは言えない。																		
C	脱文脈と再文脈化について説明をすることができていない。																		
<b>観点②</b>	<b>相互批評することについて他者の意見から気づきを得ることができるかどうか。</b>																		
A	相互批評するにあたって浮かんだ疑問、新しい発見、気が付いた「ものの見方」について具体的に記述できている。																		
B	相互批評するにあたって浮かんだ疑問や発見、気が付いたことを記述することができる。																		
C	相互批評するにあたって浮かんだ感想を記述することができる。																		
宿題指示	特になし																		